

いとうしゅんや／患者中心の医療実現のために、国内外を問わず数多くの医療現場を取材。「現場にこそ真実がある！」と医療改革のため、多くの問題提起をする。著書に「最強ドクターの奇跡」など

State - of - the - Art
Medical Treatment
in Japan
by Shunya Ito

その治療法は
本当に
効くのか

行つて、見て、聞いた

連載第八回

伊藤隼也

医療ジャーナリスト・写真家

今回のテーマ

顕微鏡歯科

最近、歯周病が心筋梗塞のリスクになるなど、歯の病気が全身に大きな影響を及ぼすことが分かってきた。厚生労働省の調査によると、特に中高年では歯周病の罹患率が50%を超えており、口の中は惨憺たる状況のようである。

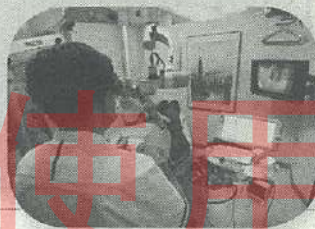
虫歯や歯周病を防ぐには、正しいブラッシングはもちろん、定期的なスケーリング（歯石除去）や健診が大切なのはいうまでもない。だが、「歯医者」と聞くと、なんとなく敷居の高さを感じてしまいう人も多いだろう。その理由として、「治療の際、痛い」「時間がかかる」「同じ場所が再発する」など、過去の治療がトラウマになっていることが多いのではないかと。さらに、歯医者は昔にあふれて

いるが、よい歯医者への基準が定かたではないという現状が、その傾向に拍車をかけている。そこで今回は、「顕微鏡歯科」という聞き慣れない歯科治療の最先端を覗き、歯科医選びの基準を探った。

訪れたのは、東京・世田谷区の「デンタルみつはし」。

三橋純医師（院長）は、'00年からすべての診療に顕微鏡を採り入れている。

(左)診察室内のモニターに映し出された治療中の歯の様子。削った歯の奥まで一目瞭然だ
(下)治療する三橋医師。背筋を伸ばしたまま治療できるため、疲労も大幅に軽減された



「今の倍率は8・1倍です。試しに肉眼ではどう見えるかを再現してみましようか」
そう言つて、三橋医師があえて倍率を最低の3倍に変えた。これでも肉眼で見るとは大きく、拡大時との情報量の差は歴然。肉眼では病変を細かく観察することはできないだろう。世間では肉眼で治療している歯科医が大多数だが、彼らは自分自身の経験や感覚

に頼らざるをえないわけだ……。 「顕微鏡歯科」といっても、やることは変わりません。虫歯や歯周病など、通常の歯科治療です。ただ、それを暗く狭い口の中でやるのがいかに難しいかということなのです」（三橋医師）
一般的に肉眼では1mm以下の識別は難しく、微細な治療が不可能なのは当然だ。口の中という小さな洞窟の中で、よく見えないまま治療をする歯科医師の精神的・肉体的ストレスは計り知れない。何より病変が見つからないだけに、治療の必要のない歯にまで傷をつけてしまいかねないことは容易に想像できる。

「虫歯に近接した歯に傷がつくと、60〜70%の確率で新たな虫歯になります。この事実はずでに科

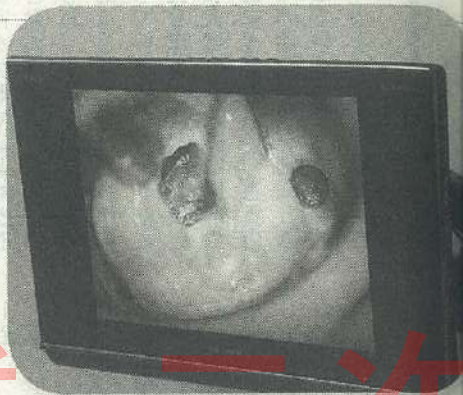
学的に証明されていますが、論文を読むまでもなく、歯科医であれば経験的に分かっているはずで

す。厳密に言えば、これはある意味、傷害罪。ですよ」（三橋医師）

顕微鏡を使えば、こうしたリスクを減らすことができる。

三橋医師が続ける。

「私も顕微鏡を使い始めるまでは肉眼やルーペで治療していましたから、初めて使ったときは、『世界が違う！』と思いましたが、『見えるものがまったく違うのです』。顕微鏡が一番大きな威力を発揮するのは「根管治療」の分野だ。根管は歯の根にあたる管のようになった部分で、中には歯髄と呼ばれる歯の神経や血管が通っている。進化した虫歯があるときに、根管の治療を丁寧に行わないとどうなるか？ 根管に細菌が残り、やがて再発し、最悪の場合は歯を抜かなければならなくなる。根管は微細で、歯の根元の見づらい位置にあるため、肉眼で丁寧



に治療するのは非常に難しい。もはや顕微鏡は現代の根管治療の必須条件といってもよいだろう。ところが現在、顕微鏡を使つて治療している歯科医はごくわずかだ。使用の有無によつて保険点数が変わるわけでもないため、歯科医にとつて、数百万円もする高価な顕微鏡を導入して丁寧に治療するメリットがないからである。

「歯科医師を対象にしたセミナーの講師として、顕微鏡を使った治療のメリットなどをお話しするのですが、聞いている十数人中で実

際に購入するのは1人か2人。トレーニングも必要なので、使いこなせる人はさらに少ないのが現状です」（三橋医師）
こうした状況を打破するためには、診療報酬上のインセンティブが必要だが、保険点数は変わらない。三橋医師はセミナーで、自分の治療を収めた映像を流しながら顕微鏡を使つた治療を紹介している。また、同じ画面を歯科衛生士と見ながら治療の検討をしたり、ときには録画している映像を見返したりして、治療法の改善に役立てているという。

これまでも、口の中という小さく暗い洞窟は、他者から見えない。密室でもあった。それを顕微鏡で可視化すれば、他者による治療の評価が可能になり、歯科医療の質が飛躍的に向上するだろう。その利益を享受するのは、いうまでもなく患者なのだ。質といえば、治療の様子を取材した際に見慣れないものがある

今週取材した医師・病院

デンタルみつはし

歯科
三橋純 医師
住所／東京都世田谷区
松原3-28-6
A&Aオーケビル1F
電話／03-3327-8170

このほかに「顕微鏡治療」を行っている歯科

松本デンタルオフィス

住所／札幌市中央区
北2条西1
マルイト札幌ビル2F
電話／011-222-1182

渋谷歯科医院

住所／新海市秋葉区
新栄町16-6
電話／0250-25-2627

吉田歯科診療室 デンタルメンテナンス クリニック

住所／東京都中央区
日本橋本町4-3-4
ホワイトボックスビル3F
電話／03-3271-9560

きのもと歯科

住所／大阪府吹田市
出口町28-1
ラガール豊津1F
電話／06-6192-8020

しいぎ歯科クリニック

住所／山口県周南市
政所3-4-13
電話／0834-61-1777